

「自助」からつながる地域防災

常磐地区防災訓練

近年、日本を含む世界各地では、自然災害により尊い命が犠牲となつていきます。災害から命を守るにはどうしたらよいのか？

今回、常磐地区全体を対象に大雨を想定した住民参加型の訓練が行われ、避難経路の確認や避難所の開設、救命救急、炊き出し、消火器の使い方など、約100名の参加者が自分の身は自分で守る「自助」と地域防災の大切さを学びました。

参加者の声

自分ができることを

坂地区 及川さとみさん(母・まなみさん(小学4年生

(とみさん)

主人が幼少の頃、家の裏の土手が崩れて家が半壊した話を普段から聞いていたことや、自分自身がこういった地域全体での防災訓練には参加したことがなかったため、参加してみよう



台風や豪雨の時には防災無線などで自主避難の連絡が流れますが、心のどこかで「大丈夫だろう」という思いがあつてなかなか避難行動を取ることができません。これからは、家族が私にならつて行動できるように、自分が率先して避難をしようと思つています。また、今回の訓練の中で一番難しかったのは心臓マッサージです。大人に対して行う場合、結構力が必要で女性の私ではなかなか効果的にでき

- 1 負傷者の運び方のコツを説明する消防多古分署員
- 2 子どもたちも心臓マッサージに挑戦
- 3 避難所現地本部での受付
- 4 簡易トイレを組み立てる消防団
- 5 日赤奉仕団の方が炊き出しの仕方を説明



区長さんに聞く

見えた課題、高まる防災意識

南玉造区長 椎名義夫さん

災害はいつ、どこで、どのように起こるかわからないもの。鹿児島県口永良部島で5月29日に起きた噴火による死者が出なかったのは、日頃から避難の仕方を訓練し、そのとおりに行動できたからです。今回の防災訓練は、忙しい時期での実施で人数があまり集まりませんでした。が、収穫のあつたものと思えます。



課題が見えました。川が増水した場合、浸水する区域では、道路が冠水してしまうので通行できず指定された常磐小学校に避難できないことです。新たに別の高台に避難する必要がありますし、その避難経路を確認しなければなりません。今回初めての訓練でしたので、どうすればいいのか勝手がわからず、マニュアルがあると対応がスムーズになると思つています。

訓練を終えて

町が目指す姿 それは「災害に強い地域づくり」

災害時には、地域の実情や状況によつては避難所へ避難することがかえつて危険となる場合もあります。まずは自分や家族の命を守るために最善の行動ができるように近所や友人たちと避難3原則をはじめとする防災について普段から話し合うことが肝心です。

さらに、今回のような地域ぐるみの訓練を通して、地域の特徴を把握するとともに「地域の絆」を強め、地域防災力を高めることが肝心です。

さらに、今回のような地域ぐるみの訓練を通して、地域の特徴を把握するとともに「地域の絆」を強め、地域防災力を高めることが肝心です。

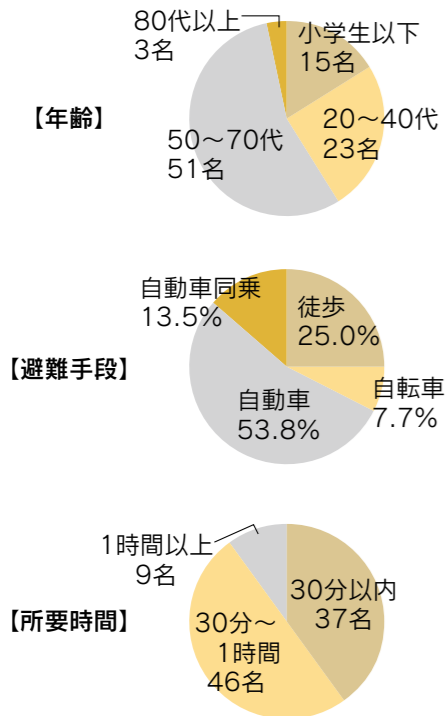
ることが災害からより多くの命を守るための第一歩となります。町でも、引き続き住民参加型・課題発見型の地域防災訓練を実施していきます。

- ※避難3原則
- 1 率先して避難者になれ：自分が率先して避難する姿が周囲の人の避難を促す
 - 2 想定にとらわれない：災害は想定どおりにはならない
 - 3 最善を尽くせ：その状況下で、もつと何ができると考える

防災訓練参加・協力団体

参加者	92名
区長	6名
民生委員	3名
消防分署	14名
消防団	23名
日赤奉仕団	15名
防災ボランティア	20名
役場	10名

防災訓練参加者統計



こんな感想・意見がありました

- 避難所に来る前に地域内の要援護者台帳に登録されている家庭を訪ね、現状調査をして避難の有無を確認してきました。(9名) 所要時間約1時間…実際に避難所が設営された場合は各地区の報告を受ける部署や担当が必要かと思つています。救急法等については、消防団を通じて定期的に地域開催をしても良いのではと思つています。
- 竹や洋服を使用して担架が作れるなんてビックリしました。とてもためになりました。
- 避難者誘導に時間がかかっている。緊急の意識がない。
- 初めてなので意識を高める上ではよかつたと思つていますが、実際には大雨で小学校に避難はできないと思う。もう少し具体的な訓練も考えて頂きたい。例えば南玉造、内野単位というような。
- AEDと心臓マッサージを初めて経験しました。思つたより力が必要でした。子どもも体験できました。